

## 郡上市特定健診受診率向上を目指す宣言の決議

少子高齢化の進む郡上市において、その生産的活動を維持するためにも、すべからく市民が健康であることは非常に重要な課題であり、予防接種や各種健診・検診など健康を支える施策は実施されている。最近ではヒブワクチン、子宮頸がん予防ワクチン、肺炎球菌ワクチンなど新たな予防接種事業も議会は承認し、疾病発生の予防に積極的に取り組んでいるところである。

一方、健診事業に関しては、以前からの継続事業ではあるが、平成18年の医療制度改革によって、平成20年4月から、健康保険組合、国民健康保険などの保険者に対し、40歳以上の加入者を対象としたメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健康診査（特定健康診査）及び保健指導（特定保健指導）の実施が義務付けられるという国の政策転換が行われた。

郡上市としてもそれに合わせて事業を見直し、市民に対して制度改革や健診の重要性など、広報紙をはじめ自治会・各種団体に対して周知活動を行っているところである。しかし、その受診率はまだ十分とは言い難く、平成21年度は4,052人が受診し、前年度と比較して2.1%上昇したものの受診率は45.6%であり、国が平成24年度までの目標値として定めている特定健診受診率の65%にはまだまだ及ばない状況である。

また、国民健康保険特別会計は、近年の少子化と高齢化や低迷する経済状況の中、保険税収入が減少する一方で医療給付費は年々増加しており、単年度収支では毎年度赤字を計上している状況であるため、市民が健診を受け生活習慣病の早期発見・早期予防や健康づくりなどに取り組む意識付けが重要である。

健康で生き生きと生活し続けることは市民の願いで、その一助として、年に一度の健診を身体の状態・健康状態を知り考える機会としてとらえ、ぜひとも多くの市民が受診するよう、改めて市民、議会、行政が一体となって取り組んでゆく必要がある。議会としても、特定健診受診率向上を目指し積極的活動をおこなうとともに、あらゆる議会活動の場を通じて健康づくり、その一つとしての特定健診受診の重要性を広く市民に伝え、健康なまち郡上を作り上げたい。

そのためにも、改めてここに特定健診受診率向上を目指すことを議会として決議し、市民の皆さまとともに健康づくりに邁進することを宣言する。

以上、決議する。

平成23年3月25日